

# 日本社会情報学会通信

Vol.19- No.1 2003.12.15

## 日本社会情報学会

〒154-0001 東京都世田谷区池尻 2-31-24 信田ビル

TEL 03-3795-8511 FAX 03-3795-9911

E-mail [jasi@jade.dti.ne.jp](mailto:jasi@jade.dti.ne.jp)

U R L <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jasi/>

## ☆ 会 長 挨拶 ☆

【平成16（2004）年度事業計画にあたって】

日本社会情報学会 会長 太田 敏澄

皆様には、日ごろ日本社会情報学会の活動と運営につきまして、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、私は、この度、平成15年10月10日開催の総会において会長に選出されました。会員皆様のご参加とご支援によりまして、清原慶子前会長に引き続きまして、本学会の更なる進展をめざし、この大役を全うする所存でございます。

社会情報学会の使命は、デジタル・ネットワークの発展とともに、ますます重要性を増していると考えられます。社会情報学の学際的性質に鑑み、関連学協会をはじめ、広く社会での協業を推進し、理念的にも、実践的にも、社会における問題解決に資する学会としての評価を得るべく、研鑽に励もうではありませんか。

平成16年度も皆様のご協力と積極的な学会諸活動へのご参加をお願いいたします。

## &lt;平成16年度事業計画&gt;

1. 問題解決に資する学会への志向
  - ◇ 学会の特色である「産官学+民」での協業の推進
2. 学術的交流の推進
  - ◇ 全国大会の開催
  - ◇ 定例研究会の開催
  - ◇ 情報政策研究会の開催
  - ◇ 研究部会の開催
  - ◇ シンポジウムの開催
  - ◇ 支部研究会の開催
3. 会員増加を図る広報活動の推進
  - ◇ 総務委員会、学術委員会、研究促進専門委員会
4. 学会活動全般の活性化に資する方策についての会員の意見・提言の積極的な実現
  - ◇ 評議員会の開催
  - ◇ 常任委員会の開催



## ☆ 第18回 日本社会情報学会全国大会報告 ☆

第18回全国大会実行委員長  
河西 宏之 (東京工科大学)

## 統一テーマ 『メディアが結ぶ安心・信頼社会』

日 時 2003年10月10日(金) 10:00~17:00  
10月11日(土) 10:00~17:30  
会 場 東京工科大学 (片柳研究所棟) 東京都八王子市片倉町 1401-1

2003年10月10、11日の両日に開催された第18回日本社会情報学会全国大会は、延べ260名の参加者を集め、盛況のうちに幕を閉じました。

基調講演、特別講演、基調シンポジウム、自治体ワークショップ、一般研究報告のいずれも内容の濃い、実り多いものでした。これもひとえに会員皆さまの熱意の表れと存じ、深く感謝致します。

また、本大会にご協賛戴きました団体・企業の方々に心より御礼申し上げます。

## 【開催内容】

[1日目 10月10日(金)]

10:00	1. 開会セレモニー 「開会挨拶」 大会実行委員長 河西 宏之 (東京工科大学)	(片柳研究所棟地下1階 B01)
10:05	基調講演 司 会：河西 宏之 (東京工科大学) 「メディアが拓く未来社会」 相磯 秀夫 (東京工科大学 学長) 「情報社会と安心・安全ネットワーク」	(片柳研究所棟地下1階 B01)
12:00	藤崎 道雄 (㈱富士通研究所代表取締役社長兼 富士通㈱取締役 CTO)	
12:00 13:00	昼食休憩	
13:00	自治体ワークショップ (1) 「安全な地域社会を支える情報システム」 モデレータ：廣川 聡美 (横須賀市) 発表者：国土交通省関東地方整備局 (防災システム) 発表者：東京大学 (防犯) 発表者：大阪府枚方市 (高齢者福祉・介護) コメント：茶谷 達雄 (都市情報システム研究所)	(片柳研究所棟3階 E303)
14:50	自治体ワークショップ (2) 「電子自治体のセキュリティ」 モデレータ：戸谷 寿夫 (羽曳野市) 発表者：総務省、埼玉県、東京都東村山市 コメント：茶谷 達雄 (都市情報システム研究所)	(片柳研究所棟3階 E303)
16:45		

13:00	基調シンポジウム 「メディアが結ぶ安心・信頼社会」 コーディネータ：遠藤 薫（学習院大学） パネリスト：小林宏一（東洋大学） 原由美子（NHK 放送文化研究所）	(片柳研究所棟地下1階 B01)
16:00		
16:10	会員総会	(片柳研究所棟地下1階 B01)
17:00		
17:10	交流懇親会	(片柳研究所棟1階ロビー)
19:00		

## [2日目 10月11日(土)]

10:30	特別講演 司会：河西 宏之（東京工科大学）	(片柳研究所棟地下1階 B01)
12:00	講演「地方分権への提言」 北川 正恭（早稲田大学大学院教授・前三重県知事）	
12:00	昼食休憩	
13:00		
10:00	研究発表 (A1) テーマ：環境に対するIT活用 座長：中嶋聞多（信州大学） コーディネータ：兼田敏之（名古屋工業大学） A1-1 研究発表：「コンピュータ支援グループ議論による環境教育実験の評価」 発表者：伊藤京子・松井康治・吉川榮和（京都大学）・鮫島良太（東京電力） A1-2 研究発表：「環境学習とIT」 発表者：岸本 亨・富樫和広（NTT 環境エネルギー研究所）・中村 裕（NTT東日本）・菅原悦造（NTT-ME） A1-3 研究発表：「市民による蜚調査へのITの活用」 発表者：富樫和広・岸本 亨・中村正人（NTT環境エネルギー研究所）・長尾是史（豊稷の郷赤野井湾流域協議会） A1-4 研究発表：「ITサービスの環境面での社会インパクト」	(片柳研究所棟1階 E101)
12:00	発表者：本庄克彦・高橋和枝・折口壮志・中村二郎（NTT情報流通基盤総合研究所）	
10:00	研究発表 (A2) テーマ：ITを活用した社会システム 座長：三木哲也（電気通信大学） コーディネータ：桜井成一郎（東京工業大学） A2-1 研究発表：「特異災害時における消防活動連携に関する研究」 発表者：大住 武・太田敏澄（電気通信大学） A2-2 研究発表：「ネットオークションにおける評判システムの効果に関する考察」 発表者：高橋寛幸・臼井幸弘（NTT情報流通プラットフォーム研究所） A2-3 研究発表：「インターネットITSを活用した道路交通情報サービス実現性に関する研究」	(片柳研究所棟1階 E102)
12:00	発表者：目黒浩一郎（㈱三菱総合研究所）	
10:00	研究発表 (A3) テーマ：電子自治体 座長：新川達郎（同志社大学） コーディネータ：富山慶典（群馬大学）	(片柳研究所棟1階 E103)



13:00	<p>研究発表 (B3) (片柳研究所棟 1階 E103)</p> <p>テーマ: 情報化社会の課題</p> <p>座長: 氷鉦揚四郎 (筑波大学)</p> <p>コメンテータ: 根本敏則 (一橋大学)</p> <p>B3-1 研究発表: 「広帯域情報通信網採用に関する集合住宅内の合意形成」</p> <p>発表者: 原田輝俊・三友仁志 (早稲田大学)</p> <p>B3-2 研究発表: 「青少年世代の生活環境の変化に及ぼす携帯電話の影響についての考察」</p> <p>発表者: 毛利康秀 (日本大学)</p> <p>B3-3 研究発表: 「高齢者快適生活ネットワーク空間形成のための技術的課題」</p> <p>発表者: 松永俊雄・坪井利憲・橋本洋志・天野直紀・河西宏之 (東京工科大学)</p>
14:30	
13:00	<p>研究発表 (B4) (片柳研究所棟 1階 E104)</p> <p>テーマ: 情報システム</p> <p>座長: 松井啓之 (京都大学)</p> <p>コメンテータ: 刀川 真 (㈱NTT データ)</p> <p>B4-1 研究発表: 「情報システムの費用対効果の推定」</p> <p>発表者: 吉岡 茂 (立正大学)</p> <p>B4-2 研究発表: 「ウェブサイトにおける情報デザインの現状と課題」</p> <p>発表者: 木島哲郎 (電気通信大学)</p> <p>B4-3 研究発表: 「地域のユニバーサルデザイン活動を支援する情報システムの実証的研究」</p> <p>発表者: 阿部昭博・狩野 徹 (岩手県立大学)</p>
14:30	
13:00	<p>研究発表 (B5) (片柳研究所棟 2階 E201)</p> <p>テーマ: 市民活動とIT</p> <p>座長: 福田 豊 (電気通信大学)</p> <p>コメンテータ: 安藤明之 (東京経済大学)</p> <p>B5-1 研究発表: 「市民の声を市政へ活かすためのテキストマイニングに関する研究」</p> <p>発表者: 近藤田津 (㈱富士通総研)</p> <p>B5-2 研究発表: 「地図情報システムを用いた市民情報共有と市民参画の可能性」</p> <p>発表者: 尾崎安彦・内藤孝一・山田英二 (㈱NTT データ)</p> <p>B5-3 研究発表: 「地域人脈を形成する情報ネットワークの試み」</p> <p>発表者: 丸尾 哲也 (NTT環境エネルギー研究所)</p>
14:30	
15:00	<p>研究発表 (C1) (片柳研究所棟 1階 E101)</p>
16:30	<p>テーマ: セキュリティ技術</p> <p>座長: 佐藤佳弘 (情報文化総合研究所)</p> <p>コメンテータ: 阿部昭博 (岩手県立大学)</p> <p>C1-2 研究発表: 「PKI (公開鍵暗号基盤) の課題と展望」</p> <p>発表者: 森嶋荘一郎 (電気通信大学)</p> <p>C1-3 研究発表: 「ITSにおけるセキュリティに関する考察」</p> <p>発表者: 清水新太郎 (㈱三菱総合研究所)</p>
15:00	<p>研究発表 (C2) (片柳研究所棟 1階 E102)</p> <p>テーマ: 自治体の情報化 (2)</p> <p>座長: 須藤 修 (東京大学)</p> <p>コメンテータ: 山本佳世子 (滋賀県琵琶湖研究所)</p> <p>C2-1 研究発表: 「地方自治体の意志決定支援と情報・討議・決定」</p> <p>発表者: 小竹裕人・岩井 淳・富山慶典 (群馬大学)</p> <p>C2-2 研究発表: 「地方自治体の広域連携による情報化の展開と課題」</p> <p>発表者: 大谷二郎 (日野市役所)</p>

16:30	G2-3 研究発表：「市町村合併に対する自治体からの情報発信」 発表者：藤本吉則（東北大学）	
15:00	研究発表（C3） テーマ：情報技術 座長：小菅敏夫（電気通信大学） コメンテータ：國藤 進（北陸先端科学技術大学院大学） C3-1 研究発表：「コア・コンピタンスと情報技術（IT）の成果－日本の製造業を対象にした実証分析」 発表者：朴 英元（東京大学） C3-2 研究発表：「今後の情報技術の普及とその課題」 発表者：道勇美奈（電気通信大学）	（片柳研究所棟 1階 E103）
16:30		
15:00	研究発表（C4） テーマ：企業の情報化 座長：安藤 明之（東京経済大学） コメンテータ：山口治男（東京工科大学） C4-1 研究発表：「情報化の雇用へのインパクト」 発表者：後藤玲子（東京大学社会情報研究所） C4-2 研究発表：「ITによる企業情報化の新たな行方についての考察－中国企業を中心に」 発表者：陳 穎嬌（電気通信大学） C4-3 研究発表：「E-ビジネスにおけるソリューションマネジメントの変化」 発表者：小畑喜一・椎塚久雄（工学院大学）	（片柳研究所棟 1階 E104）
16:30		
15:00	研究発表（C5） テーマ：社会情報学 座長：熊田禎宣（千葉商科大学） コメンテータ：太田敏澄（電機通信大学） C5-1 研究発表：「エージェント・ベースド・シミュレーションによる援助行動継続要因の考察」 発表者：中島聡子・中井 豊（芝浦工業大学） C5-2 研究発表：「知の創造の「場」としてのライブラリー－「図書館」概念の拡大への挑戦」 発表者：小林麻実（森ビル㈱、東京大学） C5-3 研究発表：「社会情報学事典とエージェントモデルの統合を目指したシミュレータの開発」 発表者：石田和成（東京農業大学）・太田敏澄（電気通信大学）	（片柳研究所棟 2階 E201）
16:30		
16:40	大会総括	（片柳研究所棟地下 1階 B01）
16:50	清原 慶子（三鷹市長）	
16:50	1. 閉会セレモニー 「会長挨拶」 会長 清原 慶子（三鷹市長）	（片柳研究所棟地下 1階 B01）
17:00	2. 「次回大会開催校挨拶」 太田 敏澄（電気通信大学）	



## ☆ 第6回研究発表賞受賞者報告 ☆

## &lt;第18回全国大会研究発表&gt;

選考委員会委員長 坪井 利憲  
(学術委員会/表彰委員会)

2003年10月10日-11に行われた第18回日本社会情報学会での一般研究報告のなかから、座長およびコメンテータの評価と大会参加者の投票にもとづき、下記の3件に対して日本社会情報学会大会研究発表賞を授与することとし、理事会の承認を得ました。

その結果をご報告いたしますとともに、その栄誉をたたえ、研究発表論題をここに掲載いたします。

受賞者の方々には、次回大会の総会におきまして、会長より賞状を授与いたします。

(敬称略)

- |        |   |
|--------|---|
| ☆ 発表表題 | 「ネットオークションにおける評判システムの効果に関する考察」                              |
| 発表者    | 高橋 寛幸 (日本電信電話(株)情報流通プラットフォーム研究所)<br>/白井 幸弘 ( 同上 )           |
| ☆ 発表表題 | 「広帯域情報通信網採用に関する集合住宅内の合意形成」                                  |
| 発表者    | 原田 輝俊 (早稲田大学大学院国際情報通信研究科博士課程)<br>/三友 仁志 (早稲田大学大学院国際情報通信研究科) |
| ☆ 発表表題 | 「社会情報学辞典とエージェントモデルの統合を目指したシュミレータの開発」                        |
| 発表者    | 石田 和成 (東京農業大学国際食料情報学部)<br>/太田 敏澄 (電気通信大学社会情報システム学研究科)       |

\*受賞者の発表要旨は、「第18回全国大会研究発表論文集」に掲載。

## 次回、第19回全国大会開催予定

日 時	2004年9月16日(木)、17日(金)
会 場	電気通信大学(調布市)

## ☆ 第19回全国大会研究発表募集のお知らせ ☆

学術委員会 委員長 遠藤 薫

第19回全国大会におきます研究発表を募集いたします。

研究発表は、1件につき30分を予定しています。研究発表のテーマと致しましては、広く社会における情報に関する最先端の論題、高度情報社会、社会システム、政治システム、経済システム、行政システム、医療システム、教育システム、法体系、地域・自治体・生活社会の情報化、電子政府・電子投票・電子商取引・電子コミュニケーション、仮想社会・仮想組織、インターネット・イントラネット・エクストラネット、など自由にお考え下さい。

第19回全国大会におきます研究発表につきましては、大会終了後に研究発表賞選考委員会を開催し、座長の方および大会参加者の方々の投票にもとづきまして、第7回研究発表賞の選考を行う予定に致しております。なお、第6回研究発表賞受賞者の方々のお名前、ご発表表題につきましては、本学会通信に掲載いたしておりますので、ご参照下さい。

改めて、本件に関する詳細を別途ご案内いたしますので、多数の皆様のお発表をお待ちしております。奮ってご応募くださいますようお願いいたします。

★第19回全国大会の開催要綱が第2回理事会（04.1.30開催）にて決定いたします。

決定後、下記の詳細をご案内いたします。

<第19回全国大会開催日、会場> (予定)

日 時：2004年9月16日(木)、17日(金)

場 所：電気通信大学 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

大会事務局／電気通信大学大学院情報システム学研究所

<第19回全国大会研究発表申込要領>

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1) 発表申込締切日      | *04. 5月21日(金) |
| 2) 発表申込要領       |               |
| 3) 論文集原稿締切日     | *04. 7月16日(金) |
| 4) 研究発表論文原稿執筆要領 |               |
| 5) 申込先          |               |

☛ 詳細ご案内予定

\*04. 2月末 学会ホームページに掲載。(http://wwwsoc.nii.ac.jp/jasi/)

\*04. 4. 1発行の学会通信に掲載。

(本件に関する問合せ 学会事務局 TEL 0422-40-2062/Mail jasi@jade.dti.ne.jp)

## ☆ 理事会報告 ☆

## 【第一回理事会報告】

日時 平成15年11月21日(金) 17:30~20:00  
場所 電気通信大学 P棟 418室

[出席者] 太田会長、遠藤副会長・学術委員長、前田常任理事、安藤理事、尾関理事、  
五藤理事、中嶋理事、安本理事、平林理事・理事局長、

(出席9+委任18 27/40)

総務委員：味水委員、山本委員、朝見委員

## 【議事録次第】

1. 平成16年度各委員会の構成について \*本学会通信 1.2頁参照
  - ・太田会長から平成16年度の役員・委員会構成(案)について提案があり、了承された。
  - ・平林理事局長より総務委員会・企画委員会の構成について説明があり、了承された。
  - ・遠藤学術委員長より学術委員会について説明があり、了承された。
  - ・平林事務局長より表彰委員会、支部構成について説明があり、了承された。
2. 平成16年度各委員会の運営および事業実施計画について \*本学会通信 総会報告参照
  - ・太田会長より来年度の学会全体の事業計画について説明があり、了承された。
  - ・五藤理事からの提案で学会の方針として官産学との連携に加え、市民やNPOなどの民を加えるという提案があり、了承された。
  - ・平林理事局長より総務委員会・企画委員会の来年度事業計画について説明があり、了承された。
  - ・遠藤理事より学術委員会の来年度事業計画について説明があり、了承された。
  - ・平林事務局長より評議員規則改正案について提案がなされた。概ね了承されたが、(4)の項目で「役員経験者」から「役員経験者等」となったが詳細は今後検討することとなった。
  - ・中嶋理事より新設する研究会に関する説明があり、承認された。また研究会に支給される補助金は規定に従い受け取る権利は有するが、支給額については今後決定するという事に決まった。
3. その他、学会運営に関する事項
  - ・平林理事局長より下記の報告と提議があり、了承された。
    - ①事務局移転 \*本学会通信に挿入の移転通知参照。
    - ②学会通信 本年の第1号(19-1)を、12月15日発行による原稿依頼
    - ③会員入退会 入退会者の承認
    - ④平成15年度収支決算、平成16年度予算について確認。
    - ⑤会員費の値上げに関する報告があり、来年度に向け、総務委員会で検討する。
  - ・次回の理事会を2004年1月30日に開催されること提案され、了承された。
  - ・次回の総会について2004年9月16日に開催することが提案され、了承された。

以上

(記 朝見)

## ☆ 平成15年度総会報告 ☆

日 時 平成15年10月10日(金) 16:10~17:00  
会 場 東京工科大学(片柳研究所棟)

## [開催次第]

司 会 平林事務局長

- 1 会長挨拶。  
清原慶子会長より、開会挨拶。
- 2 議長の選出。  
定款31条により、清原会長が議長となる。
- 3 総会の成立。  
平林事務局長より、定款第33条にもとづき、正会員数467名のうち、出席会員32名、委任状提出会員114名であり、正会員の1/4を超えているとの報告により、本総会は成立した。
- 4 議事。  
審議にあたり、書記(梅原寿夫氏)、議事録署名人(大谷二郎氏、刀川真氏)を指名され承認された。

下記の各議案につき、議長、各常任委員長、事務局より報告と提議がなされ原案通り承認した。

第1号議案 平成15年度 事業報告。

第2号議案 平成15年度 収支決算。

第3号議案 新役員の承認。(会長、理事、監査人)

第4号議案 平成16年度 事業計画。(案)

第5号議案 規則改正。(評議員規則、表彰規則)

第6号議案 平成16年度 収支予算。(案)

## &lt;平成15年度学会賞の表彰の実施&gt;

\*表彰者および内容は、本学会通信へ別記してあります。

【第1号議案 平成15年度事業報告】

[総務委員会所管] (委員長 根本 敏則)

<委員構成>

- \* 根本委員長が長期海外出張(14. 11-15. 8)の為、武藤副委員長が委員長代行を務めた。
- \* 大西末里子氏が5月退社により、後任に前田陽子氏を委員として委嘱。
- \* 藤茂氏が退社(6月)により、後任に高橋亨寿氏を委員として委嘱。

	氏名・所属機関	主たる担当
委員長	*根本 敏則(一橋大学)	全体行事調整・統括
副委員長	*武藤 茂 (シヤパンシステム)	会議体運営、対外折衝、会員増強
委員	村上 幸榮 (日本フードサービス)	財務関係、予算決算
	梅原 寿夫 (東洋オフィスメーション)	HP管理、普及活動
	露崎乃里子 (東洋オフィスメーション)	HP作成・メンテナンス
	平林 幹朗 (学会事務局)	会計、会費、会員管理、行事通知、規則、事務局
	*大西末里子 (NTTデータ)	会議体・事務局補助
	坪井 利憲 (東京工科大学)	全国大会関係
	斉藤 均 (NTTコム)	全国大会関係
	味水 佑毅 (一橋大学)	委員長事務、委員会事務
	高橋亨寿(シヤパンシステム)	
	前田陽子(NTTデータ)	

1. 総務委員会の開催 開催 3回(1/23、6/16、9/11)  
定例会議の運営、会員管理、収支予算、会費徴収状況、規則、他 検討審議、理事会提案
2. 定例会議の企画、運営。
  - ① 会員総会 1回(9/26)
  - ② 理事会 6回(11/21、1/23、3/7、5/8、7/1、8/28、10/1)
  - ③ 評議員会 1回(3/7)
  - ④ 常任理事会 1回(8/18)
3. 学会通信の発行。  
3回発行 Vol.18-1(12月) Vol.18-2(4月) Vol.18-3(9月)
4. ホームページ部会  
各委員会との連携を密にし、要請対応を都度対応し、新情報等を都度掲載した。
5. 財務管理。  
・会費の徴収。(未納者への督促を強化した)  
・平成15年度収支決算、平成16年度収支予算作成。(別記)
6. 名簿の作成。
7. 会員管理。  
・平成15年度会員増減

種類	入会	退会	資格停止	増減
個人正会員	44	22	39	-17
団体正会員	2	8	0	-6
準会員	4	0	0	+4
計	50	30	39	-19

\*資格停止:3年間会費未納会員(32)、宛先不明者(7)

・会員数推移

種類	13.9	14.9	15.9	増減
個人正会員	449	429	412	17名減
団体正会員	67	61	55	6団体減
準会員	3	6	10	4増
計	519	496	477	19減

8. 規則の改正審議、理事会・総会へ提議。  
・評議員規則の改正案 (別記)

[企画委員会所管] (委員長 福田 豊)

- 1 第18回全国大会の実施 実行委員長 河西宏之(東京工科大学)  
 [開催期日] 平成15年10月10日(金)~11日(土)  
 [会場] 東京工科大学 東京都八王子市片倉町1404-1  
 [開催校] 東京工科大学  
 [統一テーマ] 「メディアが結ぶ安心・信頼社会」

## 2 研究会の開催

## (1) 定例研究会の開催

①第86回 日 時：平成15年1月30日(木) 14:00-16:00

場 所：東京工業大学大岡山キャンパス(西9号館715室)

講 師：関根政美

(教授・慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所所長)

テーマ：地域メディア戦略研究会の活動と電子政府の発展モデル(2002年版)

内 容：電子ネットワーク研究の問題意識、電子ネットワークと市民社会プロジェクトの歩みと現状、電子ネットワークとインフォミドル、電子ネットワークと自治体電子政府調査、地域メディア戦略会議、行政情報化の流れと地域情報化の流れ等について、報告・質疑応答がなされた。

司 会：遠藤薫(東京工業大学助教授)

②第87回 日 時：平成15年3月19日(水) 13:30-16:30

会 場：松下電器産業㈱「Panasonic Center」(江東区有明2-5-18)

テーマ：『ユビキタスネットワーク社会の実現を目指して』

内 容：1. ビジネスゾーン他 館内見学

2. 全体検討会・研究会

基本テーマ「情報家電プラットフォームを活用した公共&民間サービスの融合について」

司 会：福田豊(電気通信大学教授)

③第88回 日 時：平成15年6月4日(水) 14:00-16:00

場 所：電気通信大学大学院情報システム学研究科棟215号室(中会議室)

テーマ：「環境問題への社会情報学的パースペクティブ」

講演1 『環境問題と複合的社会情報モデル』

遠藤 薫(学習院大学法学部教授)

講演2 『環境情報のガバナンス：監視、情報公開、説明責任』

新川達郎(同志社大学大学院総合政策科学研究科教授)

講演3 『環境政策を選ぶための情報の集約と開示はどうあるべきか？

—不確実性のもとでの合意形成手法の開発を念頭において—

富山慶典(群馬大学社会情報学部教授)

講演4 『環境問題に対するエージェントアプローチ』

松井啓之(京都大学大学院経済学研究科助教授)

司 会：太田敏澄(電気通信大学大学院教授)

④第89回 日 時：平成15年7月17日(木) 13:00-16:35

場 所：森ビル株式会社 アカデミーヒルズ内 ルーム名：『ステップ1』

内 容：1 研究会

テーマ：『マルチメディア時代の全く新しい都市機能研究』)

講演1 「六本木ヒルズのIT状況報告」 中江川潤

(アカデミーヒルズ リサーチネットワーク事務局

ゼネラルマネージャー)

講演2 「ライブラリーとは」 小林麻美

(アカデミーヒルズ 六本木ライブラリー事務局)

2 見学

司 会：福田豊(電気通信大学教授)

⑤第90回 日 時：平成15年9月26日(金) 14:10-16:30

場 所：法学館(伊藤塾東京校5号館502B)

テーマ：『地域医療の新しいネットワーク構築と今後の展望』

講師 平井愛山氏(千葉県立東金病院長)

司 会：五藤寿樹(聖徳大学助教授)

## (2) 情報政策研究会

①第1回 日 時 平成14年12月6日(金) 15:00-17:30

場 所 中央大学駿河台記念館 320号室

テーマ 「GISを取り巻く国の取り組みについて」

岩本千樹氏 国土交通省国土計画局国土情報整備室長  
「総務省の地域情報化施策について」

山根悟氏 総務省情報通信政策局地域通信課長

②第2回 日時 平成15年4月11日(金) 14:00~16:30

場所 ジャパンシステム㈱ 2階・第一会議室

テーマ 「ブロードバンド時代のコンテンツ産業の課題と展望」

岸本周平氏 経済産業研究所 コンサルティングフェロー

[学術委員会所管] (委員長 遠藤 薫)

## 1. 組織体制

学術委員会 (委員長: 遠藤 薫)

- | 一 副委員長: 刀川
- | 一 委員 (全19名)
- | 一 編集専門委員 (委員長: 廣松毅)
  - | 一 副委員長: 刀川 (論文審査担当)
  - | 一 副委員長: 中嶋 (編集担当)
  - | 一 副委員長: 五藤 (規則担当)
  - | 一 委員 (全31名)
- | 一 研究促進専門委員 (委員長: 増田祐司)
  - | 一 副委員長: 五藤
  - | 一 委員 (全 3名)
- | 一 表彰専門委員会 (委員長: 小林宏一)

## 2. 学術委員会開催

#1	2002年	10月31日 (木)	#6	2003年	06月13日 (金)
#2	2002年	12月09日 (月)	#7	2003年	07月14日 (月)
#3	2003年	02月19日 (水)	#8	2003年	08月25日 (月)
#4	2003年	04月01日 (火)	#9	2003年	09月30日 (月)
#5	2003年	05月12日 (月)			

## 3. 学会誌発行状況

- #15-1 2003年03月31日
- #15-2 2003年10月発行予定

## 4. 投稿論文数

- ・学術論文: 13件 (8月25日現在)
- ・一般論説: 1件 (8月25日現在)
- ・研究ノート: 1件 (8月25日現在)

## 5. 採択論文数

- ・学術論文: 2件 (8月25日現在) (03-01、02)
- ・一般論説: 0件 (8月25日現在)
- ・研究ノート: 0件 (8月25日現在)

## 6. 学位論文賞、優秀論文賞、優秀文献賞

- ・学位論文賞: 中井豊「熱狂現象としての流行の研究」<博士> (東工大)  
: 荒井恵子「社会階層における学習意欲格差と教育施策の影響に関する研究」  
<修士> (筑波大)
- ・優秀論文賞: 桃塚薫「オルト・エリートと組織変化のダイナミズムについて」 (東工大)
- ・優秀文献賞: 遠藤薫編著『環境としての情報空間- 社会的コミュニケーション・プロセスの理論とデザイン-』

## 7. 横断型基幹科学技術研究団体連合への参加

## 8. その他企画事業

- ・朝日カルチャーセンター提携講座『社会情報学とは何か』
- ・「基礎理論コース」(2003年4月期) 全三回 13:00~16:00
  - #1 2003.4.12 講師: 遠藤 薫・正村敏之
  - #2 2003.4.26 講師: 松田晃一・木村忠正

- #3 2003.5.10 講師：太田敏澄・恒松直幸  
・「メディアと公共性コース」（2003年7月期）全三回 13:00～16:00  
#1 2003.7.12 講師：遠藤薫・伊藤守  
#2 2003.7.26 講師：五藤寿樹・小林宏一  
#3 2003.8.9 講師：富山慶典・新川達朗

#### 8. 特許法第30条第1項の規定に基づく学術団体の指定

学会等で公表した発明は、公然知られた発明となり、特許を受けることができないが、特許庁長官が指定する学術団体が開催する研究集会であれば6ヶ月間新規性の喪失の例外として出願が猶予されます。本学会はこの学術団体に指定された。

詳しくは、<http://www.jpo.go.jp/torikumi/index.htm>をご参照下さい。

#### [表彰委員会所管] (委員長 小菅 敏夫)

##### [1]平成15年度の学会賞選出

平成15年度の学会賞について、学会表彰規則にもとづき、表彰委員会および学術委員会からの推薦候補を理事会で審議し、下記の通り表彰者個人・団体が決まった。

1. 学会功労賞 該当者なし
2. 社会情報システム貢献賞  
団体 千葉県立東金病院 (代表 病院長 平井愛山)  
団体 神奈川県大和市 (代表 市長 土屋侯保)
3. 優秀文献賞 遠藤薫  
著書『環境としての情報空間  
- 社会的コミュニケーション・プロセスの理論とデザイン-』
4. 優秀論文賞 桃塚薫  
標題「オルト・エリートと組織変化のダイナミズムについて」
5. 論文奨励 該当論文なし
6. 大学院学位論文賞  
・修士論文部門 荒井恵子  
標題「社会階層における学習意欲格差と教育施策の影響に関する研究」  
・博士論文部門 中井豊  
標題「熱狂現象としての流行の研究」
7. 研究発表賞 4件(第16回全国大会研究発表)  
・中村 直行(東京大学大学院学際情報学府)  
発表標題「インターネット上における医療情報のあり方に関する考察」  
・栗田 学(榊大和総研 主任研究員)  
発表標題「産業/企業におけるIT導入の効果とその計測」  
・草瀬 美緒(新潟国際情報大学 非常勤助手)  
発表標題「電子自治体に対する地方自治体の取り組みと住民ニーズの分析」  
・金 相集(東京工業大学社会理工学研究科 博士課程)  
発表標題「インターネットにおける新しい公共圏創出の可能性」

##### [2]表彰委員会

第2回(5/28)開催の表彰委員会において、下記の内容を審議した。

- <議事> 1) 「日本社会情報学会・秋山穰賞(仮称)」の検討。  
2) 各賞候補者推薦状況について。  
3) 他

##### <検討内容概要>

[1] 「日本社会情報学会・秋山穰賞」について。

##### ①趣旨確認。

5/8開催理事会にて、受け入れる方向で、詳細を表彰委員会で検討することとなった。協議会運営委員長の梅原寿夫氏より、「電子文書電子申請推進協議会からの申し入れ」趣旨説明があり、確認した。

##### ②基金受入の学会規則、法的問題等。

③賞の名称 「日本社会情報学会・秋山穰賞」とする。



## ④賞の位置づけ、表彰の対象。

既存の賞の対象・分野を包含、統括するもので、個別分野・総合的分野でも、既存の賞を超えて、「社会情報(学)」の進展に、特に、顕著なものを対象とする。

(若手を主体に選ぶ、一件 20万円位の賞金等々)

## ⑤運用について。

平成15年10月10日開催総会で承認→平成16年度より実施。

\*詳細については、次期理事会および表彰委員会にて検討し実施する。

## [2] 表彰委員会事業について。

1. 今年度の各賞の推薦状況について。
2. 予算、表彰方法等

## 【支部活動】

[関西支部] 関西支部長 小郷直言

## A. 会員の現況

個人会員数：40名 団体会員数：5団体

## B. 研究会の実施状況と今後の計画

## 1) 日本社会情報学会関西支部第7回研究会を開催した。(参加者 46名)

統一テーマ「ネット情報の活用と管理」

2002年7月6日(土)午後 於、大阪大学

研究発表(1-2) 座長：小郷直言(大阪大学)

「AHP法による情報資産の評価—情報セキュリティの観点から—」

発表者：井戸田博樹(大阪成蹊女子短期大学)

「ネット調達にSCMを適用することの可能性」

発表者：大月 正明・岡田 定(岡山理科大学)

研究発表(3-5) 座長：安本哲之助(鳥取環境大学)

「個人情報保護を視点としたシステム監査事例—セキュリティ意識に関する一考察—」

発表者：佐藤 彩(情報システム監査)

「地方公共団体のコンピュータセキュリティ対策システム監査のポイント」

発表者：小山 正弘(京都電子計算機)

「アウトソーシングの事例とシステム監査の視点」

発表者：深田 哲信(富士火災)

なお、研究会終了後 会員の情報交換のため懇親会を開催した。

## &lt;実行委員会&gt;

実行委員長・真田英彦(追手門学院大学)、運営委員長・小郷直言(大阪大学)

委員・井戸田博樹(大阪成蹊女子短期大学)、岡田定(岡山理科大学)

高瀬 宜士(松下電工)、安本哲之助(鳥取環境大学)

## 2) 日本社会情報学会関西支部第8回研究会を開催した。(参加者 44名)

統一テーマ「ネット社会における情報活用の拡充」

2002年12月7日(土)午後 於：京都大学

研究発表(1-3) 座長：黒目哲児(敦賀短期大学)

①「日米半導体産業の盛衰からみた教訓」 田中正純・Kim Hyun-Chul・小郷直言(大阪大学)

②「GISを利用した地域情報の提供方法に関する研究」 山本佳世子(滋賀県琵琶湖研究所)

③「個人どうしの情報交換と製品普及ダイナミクス」 水谷直樹(奈良産業大学)

・特別報告「言語を超えたオープンソースソフトウェア開発：異文化コラボレーション実験」

野村早恵子・石田亨(京都大学)

研究発表(4-6) 座長：太田 雅晴(大阪市立大学)

④「電子自治体実現に向けて統合型GISの現状と課題」 松村一保・宗平順己(オービス総研)

⑤「新製品の普及速度とその影響要因について」—製品カテゴリと導入時点からの検討—

陳俊・中島望(大阪大学)

⑥「山田村住民アンケートに見る情報化8年目の現状」

小松裕子(高岡短期大学)・小郷直言(大阪大学)

なお、研究会終了後 会員の情報交換のため懇親会を開催した。

## &lt;実行委員会&gt;

実行委員長・真田 英彦 (追手門学院大学)

運営委員長・牛野 正 (京都大学)

委員・岡田 定 (岡山理科大学) 高瀬 宜士 (帝塚山大学) 野村 早恵子 (京都大学)  
安本哲之助 (鳥取環境大学)

3) 日本社会情報学会関西支部総会 を2002年12月7日開催した。

役員改選で支部長は真田英彦：追手門学院大学から小郷直言：大阪大学に交替することになった。

## [九州支部]

1. 平成14年度第6回総会並びに第16回定例研究会

\*総会：<日時>平成14年12月6日(金) 13:00~14:00

<会場>九州産業大学(1号館10階 経営学部会議室)

<議題> (1) 平成14年度事業報告  
(2) 平成14年度決算報告  
(3) 役員改選  
(4) 新・旧支部長挨拶  
(5) 平成15年度事業計画(案)  
(6) 平成15年度予算(案)  
(7) その他

i. 全議案は、全会一致で承認された。

ii. 新支部役員は、下記の通り、決定された。

## 新役員

支部長	財部 忠夫 (下関市立大学)
副支部長	三木 容彦 (九州東海大学短期大学)
〃	稲永 明久 (長崎県立大学)
〃	村上 則夫 (長崎県立大学)
会計	赤坂 久米生 (東洋オフィスメーション)
監査	辻 由紀夫 (ジャパンシステム)
〃	真島 健二 (富士ゼロックス)
運営委員	徳賀 潤二 (熊本学園大学) 井上 雅 (NTT西日本)
	瀧上 雅典 (宗像商工会) 杉田 明義 (SRA西日本)
	阿部 正道 (FCC)

\*定例研究会：<日時>平成14年12月6日(金) 14:00~17:00

<第1報告>「公共向けシステム開発とその支援業務」

(株)SRA西日本 システム開発部長 黒木 譲司氏

<第2報告>「伊万里市役所における電子化対策の現状と将来展望」

伊万里市役所 情報管理課 課長 深浦 弘信氏

<第3報告>「ユビキタス・コンピュータ社会の概念について」

九州産業大学・大学院教授 渡部 榮氏

2. 第17回定例研究会

<日時> 2003年6月21日(土) 14:00~17:00

<会場> 九州産業大学(1号館10階 経営学部会議室)

<報告テーマ>

<第1報告>「長崎県における社会情報化—その現状と展望—」

長崎県立大学 助教授 村上 則夫先生

<第2報告>「福岡県庁における電子行政の現状と将来」

福岡県庁高度情報政策課 小島 英二氏

<第3報告>「平成15年度各省庁の地域情報化に対する支援対策」

九州テレコム振興センター 常務理事 古賀 豊氏

## 3. 第18回定例研究会

<日時> 2003年9月6日(土) 14:00~17:00

<会場> 富士ゼロックス(株)福岡事業所・2階・会議室  
福岡市博多区博多駅前1-6-16

<報告テーマ>

<第1報告>「福岡市情報化プラン」

福岡市総務企画局・情報化推進室・情報企画課

第1係長 土岩 英隆氏 主査 小林 保彦氏

<第2報告>「宗像市の情報化の現状と将来」 宗像市役所 吉田 洋之氏

<第3報告>「富士ゼロックスがおとどけするセキュリティソリューション」  
富士ゼロックス(株)福岡事業所 兼田 一明氏

## [中部支部]

## 1. 平成15年度事業報告(案)

## (1) 平成15年度総会

日時:平成14年10月16日(水) 12:00~13:00

場所:中電ホール会議室

議事: 1. 平成14年度事業報告  
2. 平成14年度収支決算  
3. 平成15年度事業計画  
4. 平成15年度収支予算  
5. 平成15・16年度役員

## (2) 運営委員会

## 第5回運営委員会

日時:平成14年10月5日(土) 13:00~15:00

場所:名古屋産業大学324講義室

議題:平成15年度総会議案、その他

第6回運営委員会(平成15年9月開催予定)

## (3) ニュースレター

第3号:平成15年9月発行予定

## 2. 平成16年度事業計画(案)

## (1) 平成16年度総会

日時:平成15年10月を予定

## (2) 運営委員会

## 第7回運営委員会

日時:平成15年10月を予定

第8回運営委員会(平成16年3月を予定)

第9回運営委員会(平成16年9月を予定)

## (3) 研究会

① 愛・地球博の開催に関する研究会(企画中)

② 健康・福祉を中心とした情報ネットワークに関する研究会(企画中)

## (4) ニュースレターの発行

第4号:平成16年3月発行予定

第5号:平成16年9月発行予定

## 【第2号議案 平成15年度収支決算】

## [収入の部]

科目	予算	実績	対予算
正会員会費			
個人会員	2,700,000	2,725,000	25,000
団体会員	3,600,000	2,850,000	-750,000
準会員	30,000	21,000	-9,000
(会費計)	6,330,000	5,596,000	-734,000
雑収入	30,000	121,946	91,946
収入合計	6,360,000	5,717,946	-642,054
前年度繰越高	820,440	820,440	
合計	7,180,440	6,538,386	-642,054

## [支出の部]

科目	予算	実績	対予算
1. 学会誌印刷費	1,600,000	1,382,068	-217,932
2. 研究会開催費	400,000	171,308	-228,692
3. 全国大会補助金	150,000	150,000	0
4. 分科会補助金	200,000	120,000	-80,000
5. 学会賞作成費	150,000	147,340	-2,660
6. 会員名簿作成費	0	0	0
7. 通信費	600,000	774,639	174,639
8. 印刷費	500,000	462,670	-37,330
9. 事務費	2,600,000	2,580,000	-20,000
10. 備品費	50,000	89,585	39,585
11. 会議費	100,000	55,447	-44,553
12. 消耗品費	30,000	61,472	31,472
13. 雑費	10,000	32,556	22,556
14. 支部補助金	150,000	150,000	0
15. 予備費	100,000	76,930	-23,070
支出合計	6,640,000	6,254,015	-385,985
次年度繰越高	540,440	284,371	-256,069
合計	7,180,440	6,538,386	-642,054

* 次年度繰越金	みずほ銀行	池尻大橋郵便局	預貯金計
	27,000	257,371	284,371

この平成15年度の収支決算について、監査の結果、収支決算が正確であることを証する。

平成15年10月9日

監査人 一瀬 智司

監査人 加藤 茂

## 【第3号議案 理事・会長選出の承認】

平成15年度理事選出要綱に基づき、次期理事が下記の通り、平成15年8月28日開催理事会において承認されました。

＜アイウエ順＞

	氏名	所属機関・部門	備考
1	安藤 明之	東京経済大学コミュニケーション学部 教授	
2	石田 亨	京都大学情報学研究科社会情報学専攻 教授	
3	和泉 潤	名古屋産業大学環境情報ビジネス学部 教授	
4	潮田 邦夫	㈱エヌ・ティ・ティドコモ 常務取締役 法人営業本部長	
5	遠藤 薫	学習院大学法学部 教授	
6	太田 敏澄	電気通信大学大学院情報システム学研究科 教授	
7	大山 永昭	東京工業大学フロンティア創造共同研究センター 教授	
8	尾関 敬二	練馬区総務部 参事	
9	河西 宏之	東京工科大学コンピュータサイエンス学部 教授	
10	菊田 道夫	㈱NTTデータ 公共地域ビジネス事業本部 取締役・本部長	
11	清原 慶子	三鷹市長	
12	熊田 禎宣	千葉商科大学政策情報学部 教授	
13	國領 二郎	慶応義塾大学環境情報学部 教授	
14	小郷 直言	大阪大学大学院経済学研究科 助教授	
15	小菅 敏夫	電気通信大学人間コミュニケーション学科 教授	
16	五藤 寿樹	聖徳大学人文学部 助教授	
17	小林 宏一	東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科 教授	
18	小向 鋭一	東洋オフィスメーション㈱ 常務取締役	
19	坂野 達郎	東京工業大学大学院社会理工学研究科 助教授	
20	島田 達巳	摂南大学 経営情報学部 学部長・教授	
21	須藤 修	東京大学社会情報研究科 教授	
22	財部 忠夫	下関市立大学経済学部 教授	
23	田中 啓一	日本大学 経済学部 教授	
24	玉井 弘明	東日本電信電話㈱ ナショナルビジネス推進部 取締役・部長	
25	田村 紀雄	東京経済大学コミュニケーション学部 教授	
26	茶谷 達雄	都市情報システム研究所 所長	
27	辻井 重男	中央大学理工学部 教授	
28	冨永 英義	早稲田大学国際情報通信研究センター 所長・教授	
29	富山 慶典	群馬大学社会情報学部 教授	
30	中嶋 閑多	信州大学人文学部 教授	
31	根本 敏則	一橋大学大学院商学研究科 教授	
32	濱田 純一	東京大学大学院情報学環 教授	
33	氷飽 揚四郎	筑波大学農林工学系 教授	
34	平林 幹朗	日本社会情報学会・事務局長	
35	廣松 毅	東京大学大学院総合文化研究科 教授	
36	福田 豊	電気通信大学人間コミュニケーション学部 教授	
37	前田 隆正	三鷹市・情報政策コーディネーター	
38	松行 康夫	東洋大学経営学部 教授・経営研究所長	
39	安本 哲之助	鳥取環境大学情報システム学科 教授	
40	山森 俊彦	エヌ・ティ・ティ・データクリエイション㈱ 代表取締役社長	

会長選出要綱に基づき、上記の理事による会長選出投票が、平成15年9月10日より同月26日に行われました。9月30日開催の選挙管理委員会において開票され、太田敏澄氏が選出され、平成15年10月1日開催理事会において、承認されました。

## 【監査人の承認】

監査人 小林登(㈱桑原研究所 監査役) 村上幸榮(㈱東京フードサービス 取締役)

【第5号議案 平成16年度事業計画】

[総務委員会所管]

[1]構成

平成16年度の初回理事会においての委員長選出後、構成を決める。  
 なお、新構成が決まるまでは、現構成メンバーで、委員会業務を継続する。

[2]事業・業務内容。

1. 運営。

- ①総務委員会は、学会事務局内へ置く。 \*全国大会開催事務局との連携。
- ②各委員会、各支部との連携による運営。
- ③総務委員会の開催。(年間3回以上)

主要会議体(理事会、評議員会、総会)の運営については、理事会への提案による決定にもとづき役割を分担し実施する。

2. 主要会議の開催。(業務:通知文、通知、出欠、資料、議事録、会場確保・設営)

- ①理事会(年5回:11月、1月、3月、7月、9月)  
各委員会からの議題・報告の事前確認。
- ②常任理事会(随時)
- ③評議員会(年1回: 月 日)  
\*新評議員規則に基づき実施する。
- ④会員総会(全国大会開催日の初日) \*8月開催理事会にて、議案決定。

3. 諸規則の整備。

- ①規則集の作成と関係役員への配布。
- ②主要規則のホームページへの掲載(依頼)。  
・定款、会員規則、会費規則、学会誌投稿関係規則類。

4. 学会通信の発刊(年3回:12月、4月、8月)\*Vol.19-1.2.3

5. 財務管理。(予算・決算)

- ①平成16年度収支決算。(月度決算)
  - ②平成17年度収支予算案の作成。(7月及び9月開催理事会へ提案)
- \*収入の確保策および支出の削減策を各委員会との協業により実施する。

※会費規則の見直し検討

背景:事務所移転による経費増、学会誌発行年2回以上発行、団体会員減、他

<参考>

[収支実績推移(平成11年~15年)]

<単位:千円>

		H11	H12	H13	H14	H15	H16予算
収入	計	6,065	6,244	5,999	5,432	5,718	6,080
	会費個人	2,464	2,335	2,614	2,517	2,725	2,900
	会費団体	3,400	3,750	3,350	2,850	2,850	3,100
支出	計	5,381	7,149	6,501	6,312	6,254	6,220
	学会誌作成費	1,239	1,500	1,600	1,254	1,382	1,450
	通信費	932	1,056	790	704	775	450
繰越高		3,109	2,203	1,701	820	284	144
*学会誌発行回数		1回/年	1回/年	2回/年	2回/年	2回/年	2回/年
*その他				理事選挙		理事選挙	
会員数	個人	390	437	452	435	422	
	団体	64	69	67	61	55	
	計	454	506	519	496	477	

6. 会費の徴収。(予算・決算)

- ①平成16年度・会費の請求。(12月)
  - ②過年度未納者への請求。(12月末)
  - ③未納者への督促・再請求。(5月、8月)
- \*会費未納者への督促策等の強化。

7. 会員管理。(既存会員・新入会員、退会会員)

- ①会員の確認。(会員種別:個人正会員、団体正会員、準会員)
- ②会員管理業務の電子化による正確性と対応の迅速化。\*メール会員の増強策
- ③学会概要(入会案内)の作成。・HPへのダウンロード可能対応。
- ④会員増強策

8. その他。

## [企画委員会所管]

- 1 メンバー構成 (案)  
委員長推薦のコアメンバーと、会員からの応募によるメンバーからなる委員会を構成し、活動力を高める。
- 2 委員会開催 (3回)
  - (1) 方針  
各研究会の担当 (委員構成) 明確化による運営
  - (2) 審議事項
    - ①年間スケジュール
    - ②各研究会の企画立案  
テーマ・形式 講師の折衝 (依頼状、発表方法、配付資料) 会場 案内方法
    - ③当日の運営と報告書作成について
  - (3) 日程 未定
- 3 事業内容
  - (1) 定例研究会企画実施 (年間5回)  
11月 01月 03月 05月 07月
  - (2) 情報政策研究会 (年間5回)  
12月 02月 04月 06月 08月
  - (3) 第19回全国大会の開催
  - (4) その他
    - ①大学院生対象の定例研究会設置について (継続)
    - ②外部に対する普及活動
      - ・各種研究会等の開催スケジュールをホームページで公開
      - ・他学会主催研究会等への参画 (後援・共催・協賛等)

## [学術委員会所管]

- [1] 学術委員会の開催 年5回以上開催する
- [2] 構成 平成16年度の初回理事会においての委員長選出後、構成を決める。  
なお、新構成が決まるまでは、現構成メンバーで、委員会業務を継続する。  
学術委員会のもとに以下の専門委員会をおく
  1. 編集専門委員会
  2. 文献選考委員会
  3. 研究促進委員会
- [3] 事業・業務内容
  1. 学会誌の発行  
年2回の刊行を定常化し、さらに発行回数増加をはかる
  2. 学会誌の構成に関する検討  
多様なジャンルを検討する
  3. 優秀文献の選考  
全国大会における研究発表賞の審査を行う  
学位論文賞の選考  
優秀論文賞の選考  
優秀文献賞の選考。
  4. 研究部会  
平成16年度は以下の研究部会が継続中である  
環境情報部会 (主査 太田敏澄)  
複合情報環境研究部会 (主査 遠藤薫)
  5. 学会発表データベースの移行  
さらに学会員へのサービス向上が期待される。
  6. 学会主催のチュートリアル・シンポジウムの開催へ向けて検討する

## [表彰委員会所管]

- 1 事業内容  
平成15年度の学会賞について、表彰に関する諸規程に基づき、事業の活性化を図りながら

次の表彰事業を実施する。

また、新たに追加される「秋山穰賞」の運営細則を定め実施する。

- |        |                    |
|--------|--------------------|
| ①学会功労賞 | ⑤大学院学位論文賞          |
| ②優秀文献賞 | ⑥社会情報システム貢献賞       |
| ③優秀論文賞 | ⑦研究発表賞             |
| ④論文奨励賞 | ⑧日本社会情報学会・秋山穰賞 *新規 |

## 2 運営 専門委員会

次の専門委員会を設置して行う。

- ①功労選考委員会 (学会功労賞および社会情報システム貢献賞)
- ②文献論文選考委員会 (優秀文献賞、優秀論文賞、論文奨励賞、大学院学位論文賞、および研究発表賞)

\*「日本社会情報学会・秋山穰賞」については、両委員会の推薦に基づき選出する。

## 3 事業日程等

### ①表彰候補者の推薦

推薦公募のお知らせは、学会通信への公示によりおこなう。

なお、研究発表賞は、全国大会の研究発表の中から選考する。

### ②表彰の実施

全国大会の会員総会において行う。

## 【支部活動】

関西支部、九州支部、中部支部の各支部は、それぞれの支部会則に基づき、年度事業計画を策定し、事業の積極的展開を推進していく。

各支部の事業計画については、それぞれ決定次第、学会通信および学会ホームページを活用し、周知をはかるほか、各支部の会報等で会員への周知をはかる。

### [関西支部]

日本社会情報学会関西支部第10回研究会を開催する。

12月13日 土曜日 午後 於 大阪市立大学

テーマ等 詳細はこれから検討するが、第10回という節目でもあり

\*記念支部研究会として準備中である。

### [九州支部]

(1) 平成15年度第7回総会並びに第19回定例研究会

平成15年12月初旬 (於：九州産業大学 経営学部) ・報告：3件

(2) 第20回定例研究会 (於：中村学園大学) ・報告：3件(未定)

平成16年3月下旬(予定)

(3) 第21回定例研究会 (於：東洋オフィスメーション) ・報告：3件(未定)

平成16年9月初旬

### [中部支部]

(1) 平成16年度総会

日時：平成15年10月を予定

(2) 運営委員会

第7回運営委員会

日時：平成15年10月を予定

第8回運営委員会(平成16年3月を予定)

第9回運営委員会(平成16年9月を予定)

(3) 研究会

① 愛・地球博の開催に関する研究会(企画)

② 健康・福祉を中心とした情報ネットワークに関する研究会(企画)

(4) ニュースレターの発行

第4号：平成16年3月発行予定

第5号：平成16年9月発行予定



【第5号議案 平成16年度事業計画】 添付資料 2003.10.1 総務委員会提議

## 評議員規則改正案

定款

第20条 本会に評議員をおくことができる。

2 評議員は、理事会において正会員の中から別に定める選出区分ごとに選出する。(改正)

(旧 2 評議員は理事会の推薦に基づき総会において正会員の中からこれを互選する。)

3 評議員は評議員会を構成し、会長の諮問事項に答申する。

評議員規則

第2条 評議員は、定款20条に基づき、理事会において選出する。(改正)

(旧 評議員は、定款20条に基づき、理事会の推薦に基づき総会において正会員の中から互選する。)

2 理事会は、前項の選出にあたっては、正会員の中から次の区分ごとに選出し、決定する。(改正)

(1) 大学等の教育研究機関から、当該機関の正会員在籍数が5名以上のとき1名選出する。また同在籍数が15名を超える場合、2名まで選出できる。

(2) 別表をもって定める全国各地域から、当該地域の正会員在籍数が10名以上のとき1名選出する。また同在籍数が20名を超える場合、2名まで選出できる。

(3) 正会員たる団体会員から、5名を限度として選出する。

(4) 役員経験者から、5名を限度として選出する。

(旧 2 理事会は、前項の推薦にあたっては、次の各号に基づき、その区分ごとに、関係会員の推薦に基づき候補者を選考するものとする。

(1) 3名以上の正会員が在職する大学等の教育研究機関につき、正会員3名につき1名。

(2) 別表をもって定める全国各地域につき、正会員10名につき1名。

(3) 正会員たる各団体会員につき、それを代表するもの1名。

3 評議員は、その総数を30名以内とする。(新設)

\* 本規則の改正については、平成16年度発行の「学会通信」(19-1)にて公示する。

## 【第6号議案 平成16年度収支予算】(案)

## [収入の部]

科目	15年度予算	16年度	対前年予算
正会員会費			
個人会員	2,700,000	2,900,000	200,000
団体会員	3,600,000	3,100,000	-500,000
準会員	30,000	30,000	0
(会費計)	6,330,000	6,030,000	-300,000
雑収入	30,000	50,000	20,000
収入合計	6,360,000	6,080,000	-280,000
前年度繰越高	820,440	284,371	-536,069
合計	7,180,440	6,364,371	-816,069

## [支出の部]

科目	15年度予算	16年度	対前年予算
1. 学会誌印刷費	1,600,000	1,450,000	-150,000
2. 研究会開催費	400,000	350,000	-50,000
3. 全国大会補助金	150,000	150,000	0
4. 分科会補助金	200,000	150,000	-50,000
5. 学会賞作成費	150,000	150,000	0
6. 会員名簿作成費	0	50,000	50,000
7. 通信費	600,000	450,000	-150,000
8. 印刷費	500,000	500,000	0
9. 事務費	2,600,000	2,600,000	0
10. 備品費	50,000	50,000	0
11. 会議費	100,000	30,000	-70,000
12. 消耗品費	30,000	30,000	0
13. 雑費	10,000	10,000	0
14. 支部補助金	150,000	150,000	0
15. 予備費	100,000	100,000	0
支出合計	6,640,000	6,220,000	-420,000
次年度繰越高	540,440	144,371	-396,069
合計	7,180,440	6,364,371	-816,069

【日本社会情報学会 平成15年度学会賞】  
<平成15年10月10日 表彰>

☆ [日本社会情報学会 平成15年度・社会情報システム貢献賞] (団体)  
千葉県立東金病院 (代表 病院長 平井愛山)

[表彰対象事項]

「地域共有型電子カルテネットワークシステムの構築による地域医療の向上」

[表彰事由]

本病院は、患者が安心して医療機関にかかれる地域医療を目指し、地域全体の医療機関において患者を診療する地域共有型電子カルテ「わかしお医療ネットワーク」を平成14年に構築し、運用開始しました。

日本での初めて構築された、病院と診療所を連携し、病院と薬局を連携する地域共有型電子カルテの成功事例は、厚生労働省、全国医療機関に非常に高い評価を受けて、NHKをはじめ各種メディアで報道されています。

平成15年からは、更に訪問看護ステーションや健診施設などの医療機関との連携を開始し、電子カルテの共有情報を拡大することができ、地域に従事する医療機関の診療水準の向上に貢献しています。

また、新世代の医療であるオーダメイド医療の取り組みにも積極的であり、地域の中核病院で先進的な医療を可能にする遺伝子診療支援システムも構築しています。

千葉県の1地域から全国へと、地域医療ネットワークの普及推進に向け、今後一層のご活躍が期待されます。

☆ [日本社会情報学会 平成15年度・社会情報システム貢献賞] (団体)  
神奈川県大和市 (代表 市長 土屋 侯保)

[表彰対象事項]

1. 全員参加型電子会議室「どこでもコミュニティ」
2. 分散型情報管理体制の確立
3. 公的ICカードの普及
4. 電子地域通貨「LOVES」の導入

[表彰事由]

1. 全員参加型電子情報交流システム「どこでもコミュニティ」

どこでもコミュニティは、市民約1900名が登録され、閲覧者は月5,000人を超えると推計される大変活発な電子会議室である。現在でも市民の登録数は毎月70名程度ずつ増加している。会議室が活発化する理由の一つは、電子メールアドレスを有する大和市職員全員約1335名が参加し、市民との情報交換に積極的に応じていることにある。職員の発言数は全体の発言数の約4割を占めている。

このシステムでは、発言内容が、電子メールアドレスを登録した市民、職員全員に即時に配信され、職員の意識改革を促し、自治体の政策形成能力を向上させる。日常的な市民と行政との情報交流は、行政が市民ニーズに対応してくれるという信頼性を高め、例えば、道路に穴が開いているという市民の指摘に、職員は現場の状況を示しつつ、対応する。

従来の行政のホームページでは、このようなプロセスが、誰もが知ることのできる状態に置かれることはなかった。市民意見や職員の対応といった動的な情報が公開されることによる行政の透明性確保に大いに貢献している。

2. 分散型情報管理体制の確立

市民が行政に参加するためには、市民のニーズにあわせて行政情報を提供する体制を確立することが必要不可欠である。大和市のほぼ全てのホームページは、それぞれの仕事を熟知する職員が作成管理する。職員が作成するホームページの数は、年間3,500HTMLに上り、この数は、職員一人当たり年間3ページ以上を生産する計算になる。また、ホームページは、各課等の長の権限で提供され、市民から要望のあった情報が迅速にホームページに提供される。電子メールの送信や電子会議室への発言は、公定された情報であれば、職員は自分の判断で回答し決裁は不用である。

日本の自治体でも、各担当課の責任、職員個人の責任を明確にすることにより、市民との情報交流を行う分散型の情報管理体制が確立できることを明らかにしている。

### 3. ICカードの普及

大和市のICカードは2003年3月までに87,433枚が発行され、世帯数では約35,000世帯がICカードを所有している。人口に対する普及率は40.2%であり、申請方式による公的ICカードでは、最も普及の進んだ自治体の一つである。

申請者の年齢分布には大きな特徴があり、35歳と60歳前後という2つの年齢層にピークがある。60～80歳の年齢の方の人口に対するICカード申請率は約45%と極めて高い。そして所有ばかりでなくICカードの利用者も60歳代を中心としており、40歳以上の利用者が85.9%を占めるのである。ICカードが高齢者に利用されるメディアであることを明らかにしている。さらに、女性の利用も活発で、電子会議室の参加者は男性が約60%であるのに対して、ICカードでは女性が約60%を占める。

ICカード・リーダー・ライター(RW)は、約1,100台が市内に設置され、公共施設のみならず、民間の商店約70施設、老人ホーム、地域作業所、NPO事務所など30施設を含む、約200施設に設置されている。大和市の発行するICカードには、現在12のアプリケーションが搭載されている。昨年の利用件数は約58,000件で、今後も積極的にICカードの多目的利用を進める予定である。

大和市のICカード事業は、高齢者や女性など地域に根ざして活動する人々がIT社会に参加する重要な道具であることを示し、地域経済やコミュニティの維持再生にもICカードが貢献する可能性を示している。

### 4. 電子地域通貨LOVES

大和市のICカード利用の最大の特徴は、LOVES (Local Value Exchange System : <http://loves.city.yamato.kanagawa.jp/yamato/>) という電子地域通貨のアプリケーションが搭載されているところにある。

大和市では、昼間の人口が東京や横浜に流出し、いずれの郊外都市もそうであるように、コミュニティの崩壊に直面している。その上、大型店の出店も大和市周辺では相次ぎ地域経済崩壊の危機にも瀕している。

電子地域通貨LOVESは、1) 学習施設予約、2) スポーツ施設予約、3) 講座イベント予約、4) 電子会議室登録、5) ボランティア登録検索、6) リユース品登録検索、7) ショッピング、8) 口座管理の8つの機能から構成されている。LOVESは、国家通貨では外部に流出してしまう地域の価値を、市民と行政が協力して、地域の中で循環させる仕組みとして開発された斬新な考え方によるシステムである。

現在、電子地域通貨によるコミュニティづくりには、NPO法人のラブサポートセンターがあたり、商店街では、通貨単位ラブを利用したイベントなどが企画運営されている。これらのイベントには述べ2248名が参加している。また、平成16年1月からは、行政も参加して地域通貨に経済価値を持たせる実験を開始する予定である。市民と行政による協働事業として、ITを利用した全く新しいまちづくり事業を展開させ、国内ばかりでなく海外からも注目されている。

以上のとおり、大和市は、これまで行政サービスの効率化に比重の置かれていた電子自治体政策に、情報公開と市民参加という新たな分野を切り拓くことで貢献している。

社会情報システム貢献賞として表彰されるにふさわしい自治体である。

### ☆【日本社会情報学会・学位論文賞】(修士論文)

荒井 篤子(筑波大学)

論文標題「社会階層における学習意欲格差と教育施策の影響に関する研究」

#### [表彰事由]

子供の学習意欲と教育施策の因果関係をエージェント分析により解明しようとする本論文では、「ゆとり教育」等の現実の教育施策のモメントをコンピュータ内に設定した仮想的な人工社会に組み込み、学習エージェントの教育達成度の変化を探ることが試みられている。「ゆとり教育」によりもたらされた学習内容の削減、学習水準の容易化は必ずしも学習

者の利益にならないこと、必要なのは学習者の学習意欲の向上であるという分析結果は、現行の教育施策の基本的方向性に対し一石を投ずるものとなっていること、また、モデル形成過程における関連事象・資料への目配りの周到さ、分析の手堅さが高く評価された。

#### ☆【日本社会情報学会・学位論文賞】(博士論文)

中井 豊(東京工業大学)

論文標題「熱狂現象としての流行の研究」

##### [表彰事由]

社会変動を惹起する社会現象としての熱狂(流行)現象に注目する本論文は、この種現象の多様性を記述する社会科学的「言説研究」に対し、因果の追跡を主眼とする「シミュレーション研究」を対置させつつ、エージェント・モデルや遺伝アルゴリズムを駆使して熱狂現象のシミュレーション分析を試みたものである。熱狂(流行)現象に関するモデル分析にはすでにいくつかの先行研究があるが、本論文はそうした先行研究をふまえて、それを精緻化し、敏感者の行動、非行少年のグループ形成過程、流行といった具体的現象に適用しながら、熱狂(流行)現象の関するいくつかの新しい知見を提示し得ていることが高く評価された。

#### ☆【日本社会情報学会・優秀論文賞】

桃塚 薫(東京工業大学)

論文標題「オルト・エリートと組織変化のダイナミズムについて」

##### [表彰事由]

本論文は、ある集団・組織内において、やがてエリートになる能力を潜在させつつも、現状では権威のヒエラルキーの中位以下に甘んじ、心情的には対抗的かつマージナルな地位に置かれている「オルト・エリート(alt./alternative elite)」に関する先行業績を参照しつつ、これを筆者独自のフレームワークへと再構築したうえで、古書籍商業協同組合を対象とする事例研究を試みたものである。この論文は、一見したところ情報化過程とは疎遠であると思われがちな当該業界において、オルト・エリート達が情報化に先駆的に取り組み、業界組織の構造変容をもたらした過程を綿密なインタビュー調査をもとに興味深く解明した点が大きく評価された。

#### ☆【日本社会情報学会・優秀文献賞】

遠藤 薫(東京工業大学)

文献標題「環境としての情報空間」 編著:(アグネ承風社 2002年刊)

##### [表彰事由]

マスメディアが造出する人為的記号の氾濫を背景にして構想されるに至った情報環境論は、事実上誰もが参画可能なバーチャル・スペースの形成を可能にしたデジタル・メディアの普及を契機として、今日、自らの理論的射程の拡張を求められている。「情報空間」と「環境」をふたつのキーワードとして執筆された諸論文より構成される本書は、上記のような理論状況に対し多様な観点・領域からの新たな知見をもたらすことにより、一定の「理論的視座の拡張」を達成しつつ、社会情報学の理論展開に貢献する業績として高く評価される。また、この著作が社会情報学会の複数会員の研究活動の成果として編まれていることも本優秀文献賞の趣旨にかなうものである。

## 【日本社会情報学会第17回全国大会研究発表優秀賞】

(平成14年9月26日－27日発表)

\* 中村 直行 (東京大学大学院)

発表標題「インターネット上における医療情報のあり方に関する考察」

\* 金 相集 (東京工業大学)

発表標題「インターネットにおける新しい公共圏創出の可能性  
－電子新聞の位置付けとその地域的特性を中心に－」

\* 栗田 学 (株式会社大和総研)

発表標題「産業／企業におけるIT導入の効果とその計画」

\* 草瀬 美緒 (新潟国際情報大学)

発表標題「電子自治体に対する地方自治体の取り組みと住民ニーズの分析」

## ☆ 研究会報告 ☆

[平成16年度・情報政策研究会]

(第1回)

日時 平成15年12月1日(月) 15:30-17:00  
会場 中央大学駿河台記念館 330号室テーマ 「地方公共団体におけるシステム監査の現状と今後の動向」  
講師 山田 浩二 (監査法人トーマツ)

## ☆平成16年度・学会賞候補推薦について☆

平成16年度・学会各賞の推薦公募を別記内容にて行います。  
各表彰候補の推薦をお願い申し上げます。

日本社会情報学会表彰委員会  
委員長 小菅 敏夫

### <表彰候補者の推薦締め切り>

種 類	締 切 日	推薦要領掲載案内予定
大学院学位論文賞	16年4月12日(月)	学会通信 12/15、4/1 HP 2/末
優秀文献賞	16年5月28日(金)	学会通信 4/1 HP 2/末
優秀論文賞	同 上	学会通信 4/1 HP 2/末
論文奨励賞	同 上	学会通信 4/1 HP 2/末
学会功労賞	16年7月30日(金)	学会通信 4/1 HP 2/末
社会情報システム貢献賞	同 上	学会通信 4/1 HP 2/末
*「秋山穰賞」		別途選考要綱に基づく

\*「秋山穰賞」については、別途実施要綱による選考とする。

\*各賞の推薦要領については、別途、学会通信(04.4.1発行)および  
学会ホームページに掲載致します。

☆今年度は、別記の通り、総会・全国大会の開催日が9月16、17日に  
予定されていますので、各賞推薦の締切日が早まっていますのでご留意  
下さい。

#### [功労選考委員会]

選考区分： ・学会功労賞  
・社会情報システム貢献賞

#### [文献論文選考委員会]

選考区分： ・優秀文献賞  
・優秀論文賞  
・論文奨励賞  
・大学院学位論文賞  
・研究発表賞

※各推薦書は、コピー(A4に拡大)してご利用下さい。

また、本学会通信は、ホームページへ掲載しますので、各表彰  
候補推薦書は、ダウンロードして利用出来ます。

(2月中旬以降)

平成15年12月15日

## 日本社会情報学会

## 第7回大学院学位論文表彰候補者の推薦のお願い

日本社会情報学会  
会長 太田 敏澄

この度、日本社会情報学会では、表彰規則第2条第1項(5)に定める大学院学位論文賞につき、下記により、平成15年4月1日～平成16年3月31日までの期間におきます学位取得者の大学院学位論文につきましての表彰候補者のご推薦をお願いいたします。なお、本賞につきましては、社会情報学関連大学院ご担当の先生方にも、正会員となつていただくことを条件に、ご推薦の依頼を致しております。

なお、表彰区分は、日本社会情報学会大学院学位論文賞選考要領にもとづき、以下の通りといたします。

- (1) 修士論文・・・大学院学位論文賞(修士)
- (2) 課程博士論文・・・大学院学位論文賞(博士)
- (3) 論文博士論文・・・大学院学位論文賞(博士)

また、受賞者には、全国研究発表大会総会において、賞状を授与いたしますとともに、学会通信には、受賞者名、論文題目を、日本社会情報学会誌には、受賞者名、論文題目、学位論文要旨を、それぞれ掲載いたします。

## 記

- 1. 受付期限 平成16年4月12日(月)\*必着
- 2. 推薦先 日本社会情報学会 文献論文選考委員会  
〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-38-4 産業プラザ408  
 懶キャンパスクリエイト 内  
 日本社会情報学会事務局  
 TEL/FAX 0422-40-2062
- 3. 推薦形式 学会指定の推薦用紙にて、一件一部  
(ただし、必要事項を記載した書面であれば受け付けます。)
- 4. 添付書類 学位論文四編(論文のコピーで結構です)  
 同学位審査要旨四通  
(修士論文につき1000字程度、博士論文につき2000字程度)
- 5. 推薦者資格 本学会正会員(入会手続中の方も、ご推薦戴くことができます。  
 この場合、理事会での入会承認を条件として、正会員のお取り扱いを致します。)

以上



### 表彰候補推薦書

下記の通り、日本社会情報学会表彰規則による大学院学位論文賞の表彰候補を推薦いたします。

[推薦者] (氏名) \_\_\_\_\_ 印

(所属) \_\_\_\_\_

(連絡先住所) 〒 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

TEL : \_\_\_\_\_ FAX. : \_\_\_\_\_

E-mail : \_\_\_\_\_

記

[推薦論文名] \_\_\_\_\_

[学位取得者氏名] \_\_\_\_\_

[学位授与研究科・専攻名]

\_\_\_\_\_ 大学 \_\_\_\_\_ 研究科

\_\_\_\_\_ 専攻

[推薦区分] ( ) 内に○印を付してお示し下さい。

( ) 修士論文 ( ) 課程博士論文 ( ) 論文博士論文

[推薦事由]

[受付] 平成 年 月 日	受付者氏名
---------------	-------

## 第10回社会情報システム学シンポジウム

## 一般セッション講演論文および参加者募集

主催 社会情報システム学研究会  
共催 経営情報学会 社会情報と情報流通研究部会  
日本社会情報学会 環境情報研究部会

社会情報システム学研究会では、2004年1月27日(火)に、第10回社会情報システム学シンポジウムを、経営情報学会「社会情報と情報流通」研究部会、日本社会情報学会「環境情報」研究部会と共催にて、開催する予定です。

本シンポジウムでは、特別講演を行いますとともに、社会情報システム学に関する最先端の研究発表を公募いたしまして、採用の論文につきまして、学術講演論文集を発行いたします。

ご関心のあります多数の方々のご参加をお願い申し上げます。

—記—

日時：2004年1月27日(火) 10:30~17:00  
会場：電気通信大学情報システム学研究科棟2F233(大会議室)、中会議室  
(〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1,  
京王線：調布駅(北口)下車、徒歩9分、  
大学ご案内図 URL <http://www.uec.ac.jp/acc/map.html>  
キャンパスご案内図 URL <http://www.uec.ac.jp/acc/campusnai.html>

## プログラム

10:30	開会の挨拶
10:30~12:00	特別講演「産業モジュール化時代の戦略論」 根来龍之(早稲田大学 IT 戦略研究所長・商学部教授)
12:00~13:00	休憩
13:00~17:00	一般セッション講演
17:30~19:30	懇親会：ハルモニア(大学会館3階、学内)

\*\*\*\*\*  
参加費：個人3,000円、登壇者5,000円、法人10,000円、懇親会費5,000円

※事前振込の場合、各500円引きとなります。

2004年1月21日(水)までにお振り込みの上、受領証をお持ち下さい。

郵便振込口座番号 00150-2-539320 社会情報システム学研究会  
\*\*\*\*\*

<一般セッション講演論文応募規定概要>

- Web上の画面にて、300字程度の要約および必要事項を記入の上、2003年11月28日(金)(必着)までに、お申し込み下さい。なお、WebのURLは、URL:<http://www.ohita.is.uec.ac.jp/ISS/>です。
- Webをご利用戴けない場合は、[okada@soka.ac.jp](mailto:okada@soka.ac.jp)にご連絡ください。
- 郵送による発表申込書送付先：  
〒192-8577 東京都八王子市丹木町 1-236  
創価大学経営学部 岡田 勇 宛
- 採否を通知いたします。郵送の方は、返信用葉書に宛名をご記入の上、ご同封下さい。
- 採用の方は、2004年1月8日(木)必着にて、カメラレディ原稿をお送り下さい。
- カメラレディ原稿は、A4版6枚で、図表を含みます。段組などは自由です。

<お問い合わせ先> 社会情報システム学研究会事務局

研究会代表 太田敏澄 Fax&Tel: 0424-43-5660 e-mail: [ohita@is.uec.ac.jp](mailto:ohita@is.uec.ac.jp)

電気通信大学 大学院情報システム学研究科 情報システム運用学専攻

社会情報システム学講座

URL:<http://www.ohita.is.uec.ac.jp/ISS/>

## ☆ 事務局たより ☆

平成15年度の各事業は、各会員の皆様のご協力により、充実した内容で終わることが出来ました。

また、理事任期満了に伴う「理事選挙」により、新しい役員が選出され、新年度がスタートしました。

事務局業務へも一方ならずご協力を戴き厚く御礼申し上げます。

### § 事務局の移転について

諸事情により、ジャパンシステム株式会社様から、同封の移転通知の通り、株式会社キャンパスクリエイト様の三鷹事務所に移転することになりました。

改めて、8年間お世話になりましたジャパンシステム株式会社様のご支援へ厚く御礼申し上げます。

平成16年度より新事務局において、会員皆様により良いサービスを更に心がける所存で御座いますので、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

#### <新事務局>

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-38-4 産業プラザ408

（隣キャンパスクリエイト内 日本社会情報学会

TEL/FAX 0422-40-2062

M-mail [jasi@jade.dti.ne.jp](mailto:jasi@jade.dti.ne.jp) \*変更なし

HP <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jasi/> \*変更なし

\*現事務局業務 03.12.25まで

\*新事務局開始 04.1.5より

### § 会費納入のお願い

事務局移転に伴ない、新口座開設等があり、今年度の会費のご請求が例年より遅れておりますが、年内にご請求を別途させて頂きましたので、よろしくご納入の手続きをお願い申し上げます。

過年度の会費がご事情により未納の会員の方へ、再度、ご確認の上、ご納入のほどお願い申し上げます。ご承知のように、本学会の運営は、会費収入で行われております。

会費収入が滞りますと、事業運営に多大な影響を及ぼします。

\*郵便振替口座および銀行口座が変更になりますので、ご留意のほどお願い申し上げます。

(会費納入のお願い状に新口座を明記致します)